

## ドイツ語圏文化学科

### 1. 教育研究上の目的

ドイツ語圏文化学科の教育目標は、高いレベルのドイツ語運用能力を養成するとともに、ドイツ語圏における文化的・社会的事象の研究を通して新たな視座を形成することにある。それにより批判的に物事を捉え、自立した問題解決能力・自己表現能力を身につけた人材の育成を目指す。

### 2. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

ドイツ語圏文化学科では、履修規定に即して必要単位を修得し、必要な修業年限を満たした上で、下記の能力を備えていると判断した場合に、「学士（ドイツ語圏文化学）」の学位を授与します。

（知識・技能）

1. ドイツ語圏の言語・文化・社会事情の3分野にわたる基本的な知識を学修した上で、各自が選択した専攻分野に関する専門文献を読解し、独自の研究課題について卒業論文及び卒業研究を自律的に執筆することができる。
2. 日常的なコミュニケーションにおいて文化的・社会的テーマに関するドイツ語を理解し、自らの考えをドイツ語で説明することができる。

（思考・判断・表現）

3. ドイツ語圏の言語・文化・社会事情について学修した知識をもとに、日本や他諸国の文化・社会と比較することによって、多角的視野から批判的に思考することができる。
4. 研究課題の遂行に必要な文献・資料を収集し、その情報の適切性を判断することができる。
5. 研究結果について口述及び文章によって適切かつ分かりやすく論述することができる。
6. 文化の多様性を重視する判断力を培い、他者の観点を尊重しつつ自らの意見を説得的に表現することができる。

（関心・意欲・態度）

7. ドイツ語圏の歴史的事象及び現代の問題について幅広い関心を持ち、それをグローバルな時代の問題へと繋げることができる。
8. 学修した知識を自らの問題関心に応じて積極的に深めることで独自の研究課題を見つけ、その課題について自らの考察を展開し、情報を発信することができる。

### 3. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ドイツ語圏文化学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた能力を修得させるために、以下のような内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に

編成します。

(教育内容)

1. ドイツ語圏の教育内容である言語・文化・社会事情の3分野を明示化し、学生が明確に学習目的を把握できるようにするために、3つのコース（「言語・情報コース」「文学・文化コース」「現代地域事情コース」）を置く。「言語・情報コース」では、言語学的観点からドイツ語を研究する能力とならび他言語との比較や情報伝達のあり方を分析する能力を修得する。「文学・文化コース」では、文学・芸術作品を文化史と関連させて分析する能力を修得する。「現代地域事情コース」では、現代のドイツ語圏における社会的問題を知り、日本との比較やグローバルな時代における共通の問題とその解決策を考察する能力を修得する。（知識・技能／思考・判断・表現）
2. 1・2年次においては3分野の基礎を学修するために、各コースに「入門ゼミナール」（必修）を配置する。3・4年次においては各自の関心に応じて重点的に専門的知識を深めるために、3分野それぞれに「コースゼミナール」を配置し、学生は主体的にいずれかのコースを選択する。（知識・技能／関心・意欲・態度）
3. 各コースにおける専門知識の学修をさらに深化させるために、各自の問題関心と学習意欲に応じて選択学習することができる科目として「専門演習」（3・4年次選択必修）を配置する。（知識・技能／関心・意欲・態度）
4. 日常的コミュニケーションにおいて自らの意見をドイツ語で表現する能力を培うために、ドイツ語母語話者による「コミュニケーション演習（初級・中級）」（1・2年次必修科目）及び「コミュニケーション演習（上級）」（3・4年次選択科目）を配置する。（知識・技能／思考・判断・表現）
5. 学習意欲の高い学生が高度なドイツ語能力の修得を目指すことができるように「アカデミック・ライティング」「通訳・翻訳者養成演習」を配置する。（知識・技能／思考・判断・表現／関心・意欲・態度）
6. 3コースの「入門ゼミナール」及び「コースゼミナール」では、口頭発表とレポートを必須とし、自ら選択したテーマについて調査を行い、資料検索の基本的ルールや自分の考えを適切に表現する方法などのアカデミックスキルズを修得する。（知識・技能／思考・判断・表現）

(教育方法)

1. CAP制を実施し、1年次から卒業年次まで、卒業のために修得が必要な科目の履修登録の上限を設け、それぞれの科目に十分な学修時間を確保できるようにする。
2. 学生の主体的学修を支援できるよう、アクティブ・ラーニング等の教授手法を積極的に取り入れる。
3. 少人数教育を演習、実習等で実施し、学生の能力・資質に応じた学修ができるようにする。
4. 準備学習（予習・復習）の内容と時間をシラバスに明示し、学生が授業の予習・復習

や応用的活動を通じて自律的な学修ができるようにする。

5. 教員のオフィスアワーを設けることで、毎週特定の時間帯に、学生は自由に教員に授業内容の質問をすることができ、履修計画や就職相談など、様々な相談にきめ細かく応じる。
6. 口頭発表やレポート作成の準備及び卒業論文・卒業研究の執筆の際には、オフィスアワー以外にも個別相談を行い、学生が必要とするサポートを提供する体制をとる。
7. ドイツ語学習の促進のために、外部の語学能力検定試験準備のための集中コースを通常の授業外で実施する。

(教育評価)

1. ドイツ語圏文化学科のカリキュラムの評価は、卒業・進級判定、科目ナンバリング、GPAの活用、在学生調査、シラバス記載内容等の実態把握に基づいて総合的に行う。
2. 学生個人の教育評価は、卒業要件単位数の充足、卒業研究、卒業論文等の評価、GPAによる判定、社会と関わる諸活動の成果等の実態把握に基づいて総合的に行い、学修支援に生かす。

#### 4. 入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

ドイツ語圏文化学科では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

(知識・技能)

1. 高等学校までの履修内容のうち、国語、外国語、数学、地理歴史、公民について、基本的な内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

(思考・判断・表現)

2. 現代社会において身近に見られる言語・文化に関係する事柄や社会的問題について関心を持ち、情報を積極的に求め、自分なりの思考を展開することができる。
3. 与えられた情報の内容の概略を適切にまとめ、それに対する自らの考えを明確に筋道をたてて説明することができる。

(関心・意欲・態度)

4. ドイツ語圏の言語・文化・社会事情について強い関心を持ち、さらにヨーロッパや世界情勢と関連させて考えようとする意欲がある。
5. 他者の意見に耳を傾け、積極的にコミュニケーションをとる姿勢がある。

以 上